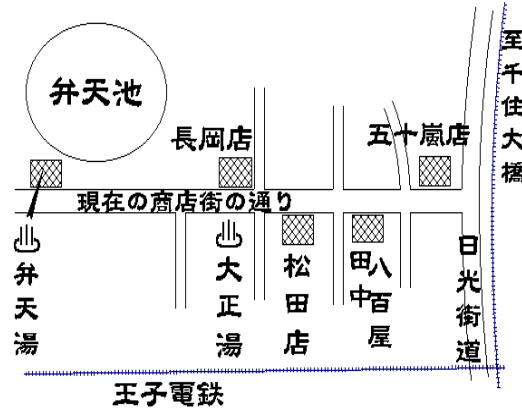




ジョイフル三ノ輪商店街
松田達弥さんの記憶
(大正九年二月十七日生まれ)

1999年に松田達弥さんからいただいた手紙の抜粋です。

三ノ輪新開地
(大正8年頃)



明治時代、商店街のあたりは畑であった、ところどころに田んぼがあり、ドブ(水路敷)がありました。
商店街を南千住第一中学の方に出て、右にある弁天湯裏から、瑞光公園まで弁天池があり、鴨を取ることができ、弁天池の裏の竹藪では、青大将などの蛇がたぐさいました。

弁天池は埋め立てられ、買い取られた大名屋敷跡と共に銘酒屋(格子戸のところ)に穴があいていたので(約40軒立ち並び、酌婦は1000人を超え、

花街として栄えました。

大正2年より王子電鉄が三ノ輪まで開通し、大正6年花街が吉原向島に分散して、商店街ができました。当時、雑貨屋さん、餅米菓子屋さん、米屋さん、呉服屋さんなどが、軒を並べていました。
私が大正九年(1922)二月十七日生まれた時のマツダ商店は雑貨屋でした。大正十五年六月、私の父が死んだ後、夏に裏からの火事で、全部燃えて失くなり、十六年に新築しました。

昭和初期にあった三ノ輪座映画館の影響もあり、お客が急に増え、一日に千人位くるようになりました。周辺には、たくさんの飲食店ができ、春木亭(浪曲、漫才、チャンバラ)(戦争がはじまる直前まであった)という寄席もでき、また大正湯(大勝湯)横に公正市場があり、これも発展につながりました。

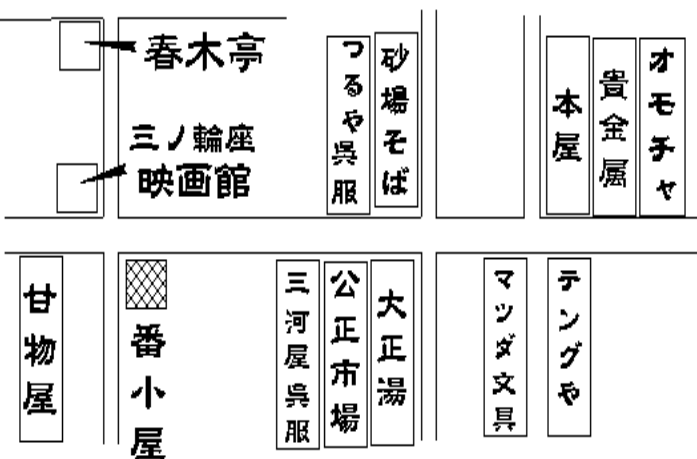
マツダ商店は、お茶・雑貨・文具など扱い、店を開けるのは朝七時頃位、閉めるのは夜十一時過ぎでした。但し、三ノ輪座映画館が、十時にはねる(閉まる)と十時半頃に閉めました。店を開けるのは夏はもつと早い時もありましたが、昭和になると段々朝遅くなり、又、商店街の申し合わせで、夜は十時になったら閉店しようという決められて随分楽になっ

たと話していたのを覚えて居ます。大晦日は、夜通しで営業して居て、元旦夕方五時に店を閉めて居ました。昭和七年に私が中学に入学しましたが七年と十二年頃もずっと夜通しでした。

※戦前から、戦後にかけて人口が急に増え、新開地周辺は、ドブに沿って百軒長屋、千軒長屋、棟割り長屋ができ、住居と家内工業(玩具・皮屋さん)を一つにしたものが多く面影のある長屋が残っています。

※公正市場
昭和初期より、15年位まであり、床屋さん、米屋さん、肉屋さん、など20店舗程あり、屋根のついたマーケットになっていました。

※春木亭
席亭関梅吉さんは、浄閑寺あたりの夜店の元締でもありました。



至王子 昭和4年～5年